

省力栽培が可能なメロン新品種「フェーリア」

メロン栽培では、過繁茂による作業性の低下や病虫害の蔓延を防ぐためのほか、着果の安定性や果実の品質を向上させる目的で、側枝を除去する等の整枝作業が行われています。しかし、この作業には多大な時間と労力が必要で、特に地這い栽培では負担の大きい屈んだ姿勢で作業を行うことから管理作業の省力化・軽労化が望まれていました。また、ほとんどのメロン品種は両性花なため、自然に着果しやすく、余分に着果した果実の摘果に労力を要していました。(独)農研機構野菜茶業研究所では、これらの課題に対応するため、余分な着果が少ない単性花型で短側枝性のメロン品種を育成しましたので、その概要について紹介いたします。

☆ 技術の概要

1. 開発した品種「フェーリア」(写真1)は、強い短側枝性を有する単性花型の固定系統「AnSB-4」を種子親とし、中程度の短側枝性を有する固定系統「AnMP-1」を花粉親とするF₁品種です。
2. 多くの側枝が20cm未満で伸長を停止するため、短い側枝の除去作業は不要です。整枝・誘引作業に要する時間は、慣行栽培に比べて5割程度短縮できます。
3. 「フェーリア」は単性花型であるため、短い側枝を放任した場合でも、自然着果による余剰果の発生は少なく、摘果作業は軽減できます。
4. 果実はやや縦長で、果皮は灰緑色でネットが蜜に発生します。果肉は淡緑色で、食味に優れます。
5. メロンの重要病害であるうどんこ病(レース1)、つる割病(レース0およびレース2)に対する抵抗性があります。

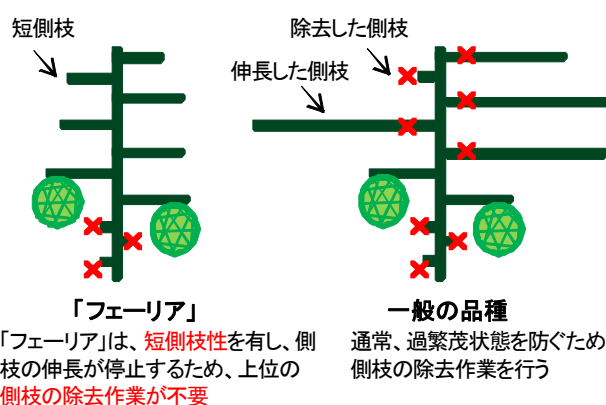


図1 「フェーリア」の短側枝性

表 「フェーリア」における省力性の評価および果実特性

品種・系統名	省力性の評価					果実特性		
	整枝・誘引時間 (h/10a)	側枝長※ (cm)	余剰果 (個/株)	花型	省力性	果実重 (g)	糖度 (Brix)	食味
フェーリア	27.1	19.2	0.4	単性花	高	1406	13.2	良
アンデス5号	52.3	49.9	1.3	両性花	低	1612	11.4	中

※側枝長:第11~20節に発生した側枝の長さの平均値(最大側枝長を50cmとして測定)

☆ 活用面での留意点

1. 「フェーリア」は、高温・強光条件では側枝が伸長し、短側枝性が発揮されないことから、比較的低温・寡日照条件となる促成および半促成作型に適しています。
2. 「フェーリア」は、本年7月に品種登録出願公表を済ませました。今後、利用許諾契約を締結した民間種苗会社を通じて種子を販売する予定です。
3. 詳しいことは、(独)農研機構野菜茶業研究所野菜育種・ゲノム研究領域(Tel.050-3533-4610)へお問い合わせください。(日本政策公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田勝弘)